

会員の皆様とともに環境保全を考え、 地域社会と一体になって活動に取り組みます。

コスモ・ザ・カード「エコ」を、2002年4月に発行して以来、わずか1年で56,000人以上の方々にご入会いただきました。ありがとうございます。これによって、予想をはるかに上回る方々が、私たちとともに環境保全を考え、推進していく意思をお持ちであることを知りました。そして会員様の数は、現在も増え続けています。

私たちは、より効果的な環境保全活動を行うために、2つのことを実践していきます。ひとつは、単なる金銭的な援助ではなく、私たちのスタッフが実際にプロジェクトの地に入って、NPOやNGOなどのプロジェクトパートナーや、支援が実施される地域社会の方々とともに活動に取り組んでいくことです。

そしてもうひとつは、活動を通して得た環境問題の実態などについて、ありのままに広く伝えていくことです。この報告書も、会員の皆様へのご報告だけでなく、より多くの方々に環境問題に関心を持っていただくことを目的に発行しています。

一個人、一企業、一基金の力では、その活動や影響力に限界がありますが、これらが有機的に結びつき、環境保全の輪が広がれば、大きな力となります。今後も「ずっと地球で暮らそう。」という合い言葉にふさわしい環境保全活動を、皆様とともに積極的に推進していきたいと考えていますので、よろしく願います。



コスモ石油エコカード基金
理事長 森川 桂造

目次

2002年度の収支報告 / 2003年度の計画 P.3 ~ 4
熱帯雨林保全プロジェクト P.5 ~ 8
南太平洋諸国支援プロジェクト P.9
シルクロード緑化プロジェクト P.10
循環型農業支援プロジェクト P.11
国内希少自然保全プロジェクト P.12
棚田保全プロジェクト P.13
コスモ・ザ・カード「エコ」以外の活動 P.14



56,000人のカード会員様とともに、 世界各地の環境保全プロジェクトを支援しました。

コスモ・ザ・カード「エコ」の仕組み

コスモ・ザ・カード「エコ」基金は、入会時と次年度以降に毎年、お客様からいただく寄付金500円と、コスモ石油からの寄付金^{*1}をもとに運営されています。会員様の数は、2002年4月の発行から2003年3月末の1年間で、56,825人^{*2}になりました。

2002年度の活動概要と 2003年度の計画

2002年度は、会員様の寄付金約2,700万円、コスモ石油の寄付金約1,880万円を基金として、「熱帯雨林保全プロジェクト」や「国内希少自然プロジェクト」などを支援しました。さらに熱帯雨林保全プロジェクトに対しては、コスモ石油からの直接寄付として1,100万円の支援を行いました。

また、「南太平洋諸国支援プロジェクト」「棚田保全プロジェクト」については、2002年度は準備を進め、2003年度からの本格的支援を計画しています。

活動方針

コスモ・ザ・カード「エコ」は、「ずっと地球で暮らそう。」を合い言葉に、以下の視点でプロジェクトを選択し、極力私たちが現地に足を運び、その地域の皆様から生の声を聞き、NPOやNGOなどのパートナーとともに検討を行い、環境修復や保全を推進しています。

*1:コスモ・ザ・カード「エコ」の売上に対して0.1%、コスモ・ザ・カードの売上に対して0.01%をコスモ石油が拠出する仕組みです。

*2:2003年3月末ご入会ベース。御入会から引き落としまでの間に時間差があるため、入金ベースでは54,049名様となります。

1. 発展途上国での「環境の修復」と「環境保全」活動。
2. 日本国内での「環境の修復」と「環境保全」活動。
3. 次世代を担う子どもたちへの「環境教育・啓発」活動。

2002年度の活動概要 / 2003年度の計画

プロジェクト名	
1 途上国の環境修復・保全	熱帯雨林保全プロジェクト (パプアニューギニア)
	(ソロモン諸島)
	南太平洋諸国支援プロジェクト シルクロード緑化プロジェクト 循環型農業支援プロジェクト
2 国内の環境修復・保全	国内希少自然保全プロジェクト
3 環境教育・啓発	棚田保全プロジェクト

収入

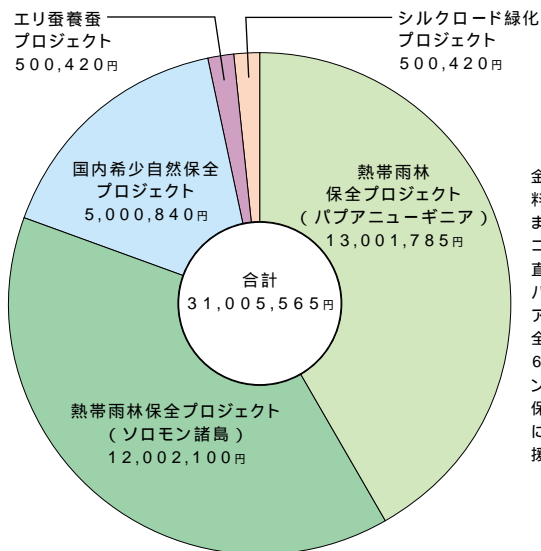
摘要	金額
カード会員拠出金	27,074,500円
コスモ石油拠出金*	18,875,341円
預金利息	62円
合計	45,949,903円

*内訳は2002年度の
コスモ・ザ・カード「エコ」の
売上×0.1%=5,249,261円と、
コスモ・ザ・カード
×0.01%=13,626,080円
の合計です。

繰越金

摘要	金額
収入	45,949,903円
支出	31,005,565円
2002年度繰越金	14,944,338円

支出



金額には振込手数料が含まれています。また、左記以外に、コスモ石油からの直接寄付として、パプアニューギニアの熱帯雨林保全プロジェクトに600万円、ソロモン諸島の熱帯雨林保全プロジェクトに500万円の支援を行いました。

2002年度の活動概要

稲作の普及に向けて、精米機を3カ所に寄贈しました。

有機農業研修センターを建設中で、アクセスロードとボカシ(有機肥料)小屋がほぼ完成しました。

この地域を支援する日本のNPOなどが存在しないため、現地パートナーの選定を行いました。

周の文王・武王の陵周辺、秦の威陽王宮跡に植林を行いました。

循環型農業の展開に向けて、キャッサバの葉を活用する「エリ蚕(さん)」「エリ蚕(さん)養蚕」技術の普及を継続支援します。養蚕」技術の講習会を開催し、繭の生産を拡大しました。

富士山・山梨県側の2カ所(1合目 紅葉、5合目 佐藤小屋)にエコトイレを寄贈しました。

2003年度の活動に向けたトライアルとして、会員の皆様を対象にコスモ石油主催で「エコキャンプ」を実施しました。

2003年度の計画

農業技術の普及を継続支援します。精米機を1カ所に寄贈する予定です。

有機農業研修センターの建設を完了します。農業技術指導者の育成とともに、循環型農業のモデルビレッジを目指します。

井戸水の海水化に対して、飲料水を確保するための雨水貯蔵タンクを寄贈します。

西安建築技術大学の学生と一般市民による植林活動を実施します。

青森県と秋田県にまたがる世界遺産「白神山地」にエコトイレを寄贈します。また、富士山と白神山地で、野口健さんの自然学校を実施します。

都市部の小学校教育の一環として、農業体験、自然体験、地元の方々や小学校との交流などを支援します。

熱帯雨林保全のために、 稲作の普及に取り組んでいます。

プロジェクトパートナー/財団法人 オイスカ、NPO法人 APSD
助成金額/バブアニューギニア:13,000,000円
ソロモン諸島:12,000,000円

熱帯雨林の破壊は、地球温暖化*を加速させるだけでなく、樹木によって地上に固定されている土壌が、雨とともに海に流れ込み、珊瑚礁などの生態系にも深刻な被害を与えます。私たちは、熱帯雨林保全のために、バブアニューギニアとソロモン諸島で、「焼畑農業」から「定地型有機農業」への移行を支援しています。

これらの地域では、伝統的な焼畑農業によってイモなどの食糧生産が行われてきました。しかし、近年の急速な人口増加により、自然の再生スピードを超えて焼畑農業が行われるようになりました。また、貧困問題の深刻化により、現金収入を目的とした商業伐採も加速しています。

私たちは、何度も現地に足を運ぶことによって、熱帯雨林の破壊を食い止めるには、植林という直接的な修復よりも、森林破壊の原因となる「食糧難」と「貧困問題」を解決することが重要であることに気がきました。それには、稲作と



精米機が寄贈された村の様子

畜産などを組み合わせた、日本で広く行われている「定地型有機農業」の普及が有効です。土壌を衰えさせることなく、同じ場所で持続的に食糧生産が行え、さらに米の輸入に使われている貴重な外貨も節約できるからです。

* 熱帯雨林は多様な生物を育むだけでなく、温室効果ガスである二酸化炭素を吸着する役割も担っています。温室効果ガスが増大すると、地球温暖化が加速します。





ウボル村の精米機寄贈式に参加した
コスモ石油社員の声

「動き出した精米機から真っ白な米が現れると、大きな歓声が上がりました。これまでは、収穫した米を230キロ離れたラバウルまで運んで精米していたのです。今後、この精米機が大いに活躍することを願っています。」

2002年度に精米機を寄贈した村
イーストニューブリテン州 ウボル村
イーストニューブリテン州 デュークオブヨーク
イーストニューブリテン州 CIS

クランプン村ライスプロジェクトスタッフ
トーマス・ケモさんの声

「2001年に、精米機が村に来たので、自分たちで手軽に精米できるようになりました。それまでは、150キロ離れた精米所まで米を運ぶ必要があったのです。私たちは、村の発展を誇らしく思います。村人一同、心からお礼を申し上げます。」



伝統的な踊りで、スタッフの訪問を
歓迎する村の人々



2003年度は、2地域に精米機を寄贈する予定です。稲作普及による定地型農業への移行を継続的に支援します。

パプアニューギニア での活動

パプアニューギニアのラバウルにある「エコテックセンター」では、パートナーの財団法人オイスカが、各地の村々からの研修生を受け入れ、定地型農業の研修を行っています。センターの卒業生は、それぞれの村で稲作の普及に努めています。私たちは、定地型農業の普及に拍車をかけるため、それぞれの村の焼畑農業の状況や稲作に対する意欲などを調べ、精米機を寄贈することにしました。2001

年度のクランプン村への寄贈は期待以上の効果をあげました。さらに2002年度は3つの村に寄贈を行いました。どの村でも稲作に対する意欲や、環境保全に対する意識は高く、これからの波及効果が期待されます。実際、パプアニューギニア政府は、米の輸入を減らすために、精米機の普及を図り始めました。

2003年度は、精米機の寄贈に加えて、稲作と並行して畜産を行い、循環型農業を実現するための飼料や肥料づくりへの支援を実施していきます。

焼畑が行われた後の
熱帯雨林





ソロモン諸島マライタ州(森林破壊によって、いたる所で土壌がむき出しになっている。)

ソロモン諸島での活動

ソロモン諸島では、人口増加による食糧不足に加え、1990年代の民族紛争によって外国資本が撤退し貧困が加速するなど、状況は悪化の一途をたどっています。

ソロモン諸島マライタ州フィユ村は、人口700人ほどの平均的な村で、イモなどの農作を中心に自給自足の生活をしています。私たちは、村の人たちを中心に、NPO法人のAPSDとのパートナーシップで、この村を循環型農業のモデ

ルビレッジにするとともに、農業普及リーダーの育成の場とするためのプロジェクトを推進しています。

2002年度は、村内のアクセスロードの敷設をほぼ完了し、さらに研修センターをはじめ、養豚施設やボカシ(有機肥料)小屋など、基本的な施設の建設に着工しました。研修センターは今年秋から冬には完成する予定で、これにより、定地での有機陸稲栽培に養豚・養鶏を組み合わせた循環型農業のための基盤が整います。





稲の発育をチェックする研修センター所員

マライタ州フィユ村での
コスモ石油エコカード基金
理事長のスピーチ

「私たちは短期間で活動を止めたりはしません。皆さんがその熱意を失わず、将来のために行動を続ける限り、支援を続けることをお約束します。」



ボカシ(有機肥料)小屋を視察する
エコカード基金理事長(左)と
ルーベンモリー・マライタ州知事



スタッフ、NPO、現地の人たち

マライタ州
フィユ村の人たちの声

「人口が増えるに連れて農業の生産性は下がり、海では魚も減りました。森が減り、水害や干ばつなどの災害も増えました。早く悪循環から抜け出さなくては、子どもたちの未来はありません。同じ土地で生産性の高い食糧生産が続けられる有機農業は、ようやく見え始めた希望の光です。」

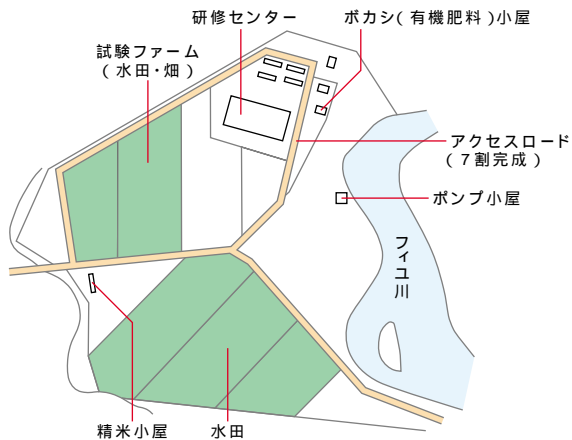


田植え直後の田んぼ



モデルビレッジのボカシ小屋(建設中)とアクセスロード

マライタ州フィユ村循環型モデルビレッジのプロジェクトサイト





海面上昇による海岸侵食の激化で、 存亡の危機にある島嶼国を支援します。

2003年度より支援を開始するプロジェクトです。

南太平洋の珊瑚礁でできた海拔の低い島々は、地球温暖化*による海面の上昇で、存亡の危機に晒されています。この影響で、井戸水の海水化という問題も発生しています。珊瑚礁の島々は、山がなく雨水を貯える機能がないため、飲料水や生活水の確保は重要です。一方、温暖化による気候変動で、雨期乾季の差が不明瞭になり、年間を通じて雨量

は増えています。こういった気候変動をとらえ、私たちは、飲料水の確保を支援するために、雨水貯蔵タンクを設置することにしました。2002年度は、島嶼(しょ)国とのコネクションづくり、支援計画の立案などを行いました。2003年度中には、キリバスのクリスマス島に、雨水貯蔵タンクを設置する計画です。

*先進諸国での火力発電や、自動車の使用などによって排出された二酸化炭素により、地球の温度が上昇し、南極の氷などが海に溶け出しました。現在、二酸化炭素などの温室効果ガスの排出を抑制するために、国際的な取り組みが展開されています。日本は、2008～2012年度までに、1990年度比で6%の二酸化炭素排出量を削減することを国際社会に公約しています。



2050 中国代表
孫若槐さんの声

「植林用の沙棘(サージ)の苗木を農家に栽培してもらい、それを買い上げるといふ形で、緑化と貧困解消の両方にコスモ石油エコカード基金の支援を役立てたいと考えています。沙棘の木は中国内陸部の乾燥地帯に適応できるだけでなく、実は葉になりますし、根は空気中の窒素を固定し、土壌の滋味を豊かにします。コスモ・ザ・カード「エコ」会員の皆様も、ぜひシルクロード緑化にご参加ください。」

シルクロード各都市で、 植林と環境啓発活動を支援しています。

プロジェクトパートナー/NPO法人 2050
助成金額 / 500,000円

中国・黄土高原は日本の1.4倍の面積、52万km²もあり、「西部大開発」*に伴う環境破壊によって、さらなる砂漠化が進行しています。砂漠化は黄砂の増大をはじめ、黄河の保水能力の低下や中下流での渇水、一方、大雨が降ると一気に流出し洪水を引き起こすなど、人々の生活に重大な影響を与え始めています。NPO「2050」は、砂漠化防止に取り組む学生が中心になって設立した環境団体とともに、地方政府や一般市民を

巻きこんで、植林活動を実施しています。効率的な植林を行うために、中国地方政府の緑化計画とタイアップし、シルクロード沿いを中心とした約12.5kmの土地に植林することを決定しました。エコカード基金は、苗木を購入する資金として活用される予定です。さらに、地域の方々や学生に対して緑化の必要性を検討する勉強会などの啓発活動を通じて、砂漠化の弊害に対する理解促進にも取り組んでいきます。



* 中国東部と西部の経済格差を改善するために、四川省、雲南省、貴州省、チベット自治区、重慶市などの西部地域を対象に、中国政府が実施している政策です。道路・鉄道などのインフラ建設、農耕地を森林などに戻す生態系保護、産業構造の調整、科学技術・教育の発展などを主なテーマとしています。1999年、西安において開催された西北5省国有企業改革座談会の席上、江沢民総書記が西部大開発実施を提起したことが契機となって、この開発がスタートしました。



フィリピンの農村部で、 循環型農業の展開を支援しています。

プロジェクトパートナー/NPO法人 2050
助成金額/500,000円

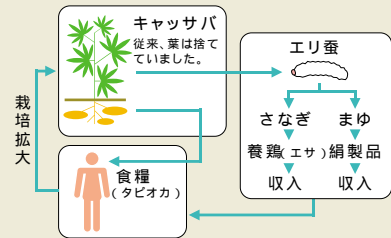
NPO「2050」とともに、フィリピンで「エリ蚕(さん)」という野蚕による養蚕技術の普及を支援しています。エリ蚕は、従来は廃棄していたキャッサバなどの葉を餌にできるため、これを利用して持続可能な循環型農業を実現することが可能になります。

2002年度は、パラワン島の7つの町村の女性に、エリ蚕の飼育方法、糸つむぎ、編物、織物などの講習会を開いて、技術者の拡大を図りました。エコカード

基金は、現地での技術指導員を確保するための資金として利用

されたほか、つむぎ車や繭(まゆ)精練用の機材の購入にあてられました。現在は、マフラーなど少量のエリ蚕商品が生産されていますが、今後は生産量の拡大を図っていきます。私たちは、こうした活動を通して、循環型農業の実現と、農村貧困女性の収入確保および地位向上を支援していきます。

持続可能な農業の仕組み





富士山に設置されたエコトイレ。年間数十万人といわれる観光客・登山家などの排泄物をこのエコトイレで処理することにより、自然に放置されることもなくなり、富士山の恵みである地下水の保全にも役立つと考えられます。



富士山の美化支援をはじめ、国内の自然保護に対する啓発を行います。

プロジェクトパートナー/NPO法人 セブンサミッツ持続性社会機構
助成金額 / 5,000,000円

「富士山」は、ごみがあまりに多いため、世界遺産に登録されませんでした。また、世界遺産に登録されている「屋久島の杉」「白神山地のブナ」などの原生林でも、自然破壊が深刻化しています。

2002年度は、アルピニストの野口健さん(NPO「セブンサミッツ持続性社会機構」)とともに、富士山の環境保全のために、杉チップ式エコトイレを2基寄付しました。また、富士山1合目の紅葉、および5合目の佐藤小屋への設置作業

には、野口健さんが支援しているNPO「富士山クラブ」も加わりました。

2003年度は、富士山と白神山地で、野口健さんの「夏休み自然学校」を開催し、国内希少自然保護の重要性を啓発します。また、白神山地のブナ原生林の保全の一助として、エコトイレの寄贈も行う予定です。



野口健さんに支援目録を贈呈するエコカード基金理事長



長野県
上水内郡三水村



2002年度は、エコカード基金による活動ではなく、コスモ石油主催・NPO「APSD」のサポートにより、約30名のコスモ・ザ・カード「エコ」会員の方々に、棚田での稲刈りを体験していただきました。参加された方々からは、棚田での農業の大変さ、大切さ、景観の美しさなどに対して多くの声をいただきました。

次世代を担う子どもたちに、 棚田での環境教育を行います。

2003年度より支援を開始するプロジェクトです。

棚田は日本の美しい原風景ともいえる伝統的な水田で、小さなダムと呼ばれるほどの保水力を持っています。しかし中山間地域では、過疎化や少子高齢化などによって棚田の荒廃が進み、放置しておくとも自然災害が拡大する恐れもあります。棚田を保全するには、棚田で再び稲作を行う必要があります。

長野県上水内郡三水村は、周辺の村々が観光地化を進める中、自然環境や農業を大切にしていこうという方針を掲げてきた、美しい景観を持つ村です。私たちは、この村を舞台にプロジェクトを実施することにしました。

棚田保全活動と環境教育を一体化させれば、都会と農村、次世代を担う子ども

たちと高齢者の方々の間に交流が生まれ、大きな効果が生まれるはずです。私たちは、田植え、稲刈り、村との交流や自然体験などを、学校教育の「総合的な学習の時間」に組み込み、教室での授業と合わせて学習するという計画を立てました。2003年度は、環境教育に熱心に取り組んでいる川崎市立桜本小学校の6年生約50名を対象に、棚田での体験学習を実施する予定です。さらに、農業体験だけでなく、荒廃した棚田や畑の復旧などにも取り組むべく、村の方々やプロジェクトパートナーのNPO「APSD」とともに将来の構想を検討しています。

エコキャンプに 参加された コスモ・ザ・カード 「エコ」会員様の声

「車の排気ガスなどで公害になっている東京とちがって、長野はとてもきれいでした。本来の地球を見落としている人に、稲刈りなどの色々な体験をしてほしいと思いました。」

(10代・女性)

「テレビで流れるコスモ石油の映像を見ては、今回のキャンプに思いを馳せ、子ども・親ともに楽しみにしておりました。ありがとうございました。三水村の現状には、少し驚かされました。皆、大変なんですね。」

(40代・女性)



会員の皆様が給油されたガソリン、 1カ月分をCO₂フリーにしました。

2002年12月、コスモ・ザ・カード「エコ」会員の皆様が給油されたガソリンから発生したCO₂は、すべて地球をめくってオーストラリアのユーカリの森に吸収されました。

会員の皆様が12月に給油されたガソリンの総量4,846キロリットルから排出されるCO₂は、11,195トンになる計算*です。コスモ石油は、2002年9月に、オーストラリアの植林会社から購入した24,000トン分のCO₂排出権のうち、11,195トン分を充当することにより、4,846キロリットル分のガソリンをCO₂フリーとしました。これを証明するために、「二酸化炭素吸収証書」を作成し、この分野の世界的権威であるフィンランドのヤコプリ社と、朝日監査法人の検証を受けました。

*計算式は以下の通りです。



会員の皆様の 12月給油量 4,846キロリットル	×	ガソリン1KLあたりの 二酸化炭素発生量 2.311トン	=	吸収された 二酸化炭素の量 11,195トン
---------------------------------	---	------------------------------------	---	------------------------------

プロジェクトに協力いただいた方々

財団法人オイスカ

東京都杉並区和泉3-6-12
TEL.03-3322-5161
<http://www.oisca.org>

NPO法人APSD

(Asia Pacific Sustainable Development)
東京都三鷹市下連雀3-35-16 飛高堂SOHOオフィス201
TEL.0422-72-2831

NPO法人セブンサミツ持続社会機構

東京都千代田区四番町11-4 四番町ホームズ1階
TEL.03-3265-9021

NPO法人2050

東京都港区南麻布3-5-12 仙台坂ハイツ101
TEL.03-5420-1425
<http://www.npo2050.org>

パプアニューギニア政府

ソロモン諸島マライタ州政府

三水村役場

長野県上水内郡三水村大字芋川324番地
TEL.026-253-2501
<http://www.vil.samizu.nagano.jp>

「ずっと地球で暮らそう」クリック募金
Supporting the planet for your future

当クリック募金にて実施された募金は、コスモ・ザ・カード「エコ」会員様からの寄付とともにお金を石油が取り除かれた持続可能なプロジェクトに寄付いたします。

コスモ・ザ・カード「エコ」会員様からの寄付 + 「ずっと地球で暮らそう」クリック募金からの寄付 = コスモ石油が寄付をします。

一筆支援したい目的を以下から1つ選択してクリックしてください！
【クリックする方は、お金がわかりません！】

- 動物飼育基金 (Petkeeper Foundation)
- 国内希少自然保全 (Nature Conservation)
- 環境教育普及支援 (Steward Ready)
- シルクローブ輸出 (Silkroad Tree Planting)
- 脱炭素型温暖化対策 (Decarbonized Climate Action)
- 緑の基金 (New Field Foundation)

2002年度の活動
オイスカやAPSDとIOAPO、環境政府とのパートナーシップのもと、空想の持続可能な世界を築く。動物飼育を推進する活動も実施しています。また、緑の基金などの企業家支援財団の協賛や、基金登録を推進、堂々と11ヶ所の拠点となる学習センターの建設、産学連携なども行っています。

① 産学連携支援は、こちら
② 動物の飼育は、こちら

※ クリック募金、1人1日1クリックの上限があります。2003年度はクリック募金、実施されません。詳細は募金のホームページをご覧ください。 朝日と星のクリック募金を始めませんか！

クリック募金

コスモ石油のホームページを訪れた方が、支援したい環境保全プロジェクトを選んでクリックすると、自動的に1円を寄付したことになる「クリック募金*」を2003年2月に開始しました。2003年3月末現在、235,735円の募金をコスモ石油が拠出しています。

*1日1回まで。

クリックした方に、お金はかかりません。

<http://www.cosmo-oil.co.jp/kankyocharity/index.html>



このコスモ・ザ・カード「エコ」活動報告書の用紙は古紙配合率100%の再生紙を使用しています。印刷インクには大豆油インクを使用することで環境負荷の低減を図っています。

この報告書は、コスモ石油提供で作成し、エコカード基金は使用しておりません。



東京都港区芝浦一丁目1番1号 東芝ビル 〒105-8528
コスモ石油(株)環境室内
TEL 03-3798-3222
<http://www.cosmo-oil.co.jp/>